

職務経歴書の通り、私は、同一企業グループに属しながら、営業・ライン業務より、財務・経理業務への職種変更を行いました。ライン在職当時は、経理部門より売上計上の時期や、費用の計上科目等について種々注意や意見がありましたが、それらに積極的に対応を行いませんでした。「細かいことばかり言って、大局のわからないのが経理だ」と感じていたからです。

しかし、立場が変わって経理担当になったときに、営業に一番クレームを言っている自分に気がつきました。私がそのように行動した理由は、次のように考えたためです。会計は複雑で多様な事業の内容を数字という言葉で表現するものであり、その言葉を処理する経理は「会社の羅針盤」とであると痛感したためです。そして「会計処理はかくあるべし」という信念を持つようになったのです。

このように、ラインとスタッフの両面の経験から、「営業の心の痛みがわかる経理マン」たることを心がけて業務を行ってきました。営業は教育的指導だといやみをいいながら受け入れてくれるようになりました。そして経理の重要性を認識してもらうこと、及び専門知識がなくとも適正な会計処理ができる仕組みを作り上げていくことを、ライフワークとしたいと考えるようになりました。

会計は、商法、法人税法、証券取引法の法的な制約と企業会計原則および種々の会計基準による会計慣行より成り立っており、広範な知識と実務の経験を必要とします。しかし、企業の活動の中で他部門の人達がそれらのことをマスターすることは到底望み得ないことでもあります。その解決策は企業の実情に合わせた会計処理の方法及び手続きを決め、社内のあらゆる組織でそのルールを厳守していくことだと考えます。そのルールの意義を理解してもらう努力は続けなければなりません。会計のルールを遵守するためには、何故そうするのか、そうしなければならないのかを構成員が納得しなければなりません。チームマルイワこと岩倉はこのような考え方に立って、会計処理の方法及び手続きを企業の実情の中で決定するとともに、その意義を理解して頂くように、従業員の研修をするお手伝いをしたいと念じています。

また、経営管理を有効に機能させるために、欠くことのできない会計制度（経営計画の策定、予算制度の実施、月次決算制度、部門別業績評価制度等）を構築・改善するお手伝いをしていきたいと考えています。

このような会計制度は上記の会計処理の方法及び手続きを整備し、経営幹部の方々がその意義を理解できたうえで行うべきことです。

TVの英会話に、100語でしゃべる英会話という番組があります。英語という言葉の文法や語彙の習得に膨大な時間をかけないで、とりあえずコミュニケーションを取ろうということだと思います。

難解と云われる企業会計の実務の中でも、事業活動が会計という言葉で表現ができ、理解でき、相互にコミュニケーションを取れるようにしていくために同じことが云えるでしょう。ただ、単に、過去の業績をまとめて財務諸表に表現することをこえて、有効な情報伝達の手段としての経理業務を追い求めています。

以上